

平成維新を実現する都民の会・会報

第13号・1996年9月1日発行

定価 300円・年間購読料

3000円(税・送料込み)

年間購読料振込先

郵便振込口座 00190-5-252552

振込口座名 平成維新を実現する都民の会

発行人 江頭清昌

編集人 梶原光恵

河登一郎・小枝 尚

長谷川文昭・原 暁美

治田桂四郎・山崎康彦

事務局：〒182 調布市柴崎2-13-3つば丘M509

TEL&FAX 0424-86-6497 NIFTY-ID GEF03673 杉原健児

生活者通信

都民の会第2期代表就任に当たって

平成維新を実現する都民の会代表・江頭清昌

昨年5月に平成維新の会が崩壊した時に、東京は「火を消してはいけない」を第一義として池袋で誕生した。会則の討議には、種々の意見が出たが、私は大前研一の名前が残ったので、無投票であったが、第一期の代表を引き受けた。

特別に執行部を構築する気持ちはなく、唯、代表補佐役に杉原氏、全国協議会連絡役に菅井氏、会報担当として山本明夫氏の三名をお願いした。総会後に残った方々には、各人の思い、期待を尊重して、委員会制を作り、その委員長になっていただいた。

ピラミット型の組織でなく、同じ目線のフラットの上で、各委員会が独自で拡大、発展することを願った。私は、なるべく黙って意見を聞き、見守り、サポートする役に廻った。数少ない活動会員の個性、特性を大切に、同じ思いの方々は、地区を横断して委員会に入ってもらい、また地域を大切にする方々には、ブロック制の中で、活動していただくことを願った。特別にエコ最前もなかった、どなたの意見も黙って聞き、反論もしなかった。

運営委員会も公開して、会員であれば誰でも自由に参加できるようにした。また、当日出席者の方々と決議していただいた。この方式は、混乱を生む種を作ったと思っている。委員会やブロックの代表としての意志ではなく、個人の考え方だけで発言する様になれば、各委員会やブロックは弱体化する傾向を作るような気がする。一年たって批判・不満の声が出てきた。私は嬉しかった。

黙って去って消えて行く会員よりも。これは活性化の一面だと思っている。

各問題については討論されなければならないが、討論で説得された人が去って消えられたら困るので、妥協と忍耐したこともあった。出来たら七色の虹の様に、色々な考え方の人々の集まりにしたい。唯、私は大前ファンの一人であるから、例え「いい日本を造ろう」の方向は同じであっても、大前研一の名を消す方々とは、行動を共にしたくない。

まだ、成熟した会ではない。種が播かれ、芽が出はじめた幼年期での会だと思っている。これから発展期に入らなければならないが、その過程では、四方八方に成長・活動も行われるだろう。そして抗争もあるだろう。分裂もあるかもしれない。それでも、根がしっかりしていれば大丈夫である。大木を見よう、大木は左右に上下に枝が延びている。

私は、一過渡期の役をするだけと思っている。例えばばらばらになっても、数が必要な時があれば、呼びかければ集まってきて、また散っていく。焦ってはいけない。だが急がねばならない。日本が駄目になるから。

第1期の代表は以上の様な考え方で努めてきました。第2期も、基本的には同じ考え方で運営したいと思っています。皆さんのご意見を尊重しながら、必要な改善・改革には、積極的に取り組んで行きたいと思っています。

生活者通信〈第13号〉目次

1 頁「都民の会代表就任に当たって」	江頭清昌
2 頁「第14回運営会議議事録」	江頭清昌
2 頁「都民の会の活動経過と活動予定」	杉原健児
4 頁「沙漠緑化／緑の協力隊について」	河登一郎
4 頁「選挙公報請願運動を振り返って」	埼玉・辻本時義
5 頁「なぜ全国組織に入らないのか」	千葉・野村知生

6 頁「イベント・集会情報」	山崎康彦・長谷川文昭
8 頁「ガラガラにっポン・女性の会」	原 暁美
9 頁「第3回市民運動フォーラム開催」	梶原光恵
10 頁「大衆運動が政治改革への近道」	小枝 尚
11 頁「情報公開／会員拡大委員会」	他 治田桂四郎
12 頁「平成維新を実現する都民の会・会員名簿」	